

# 地域医療患者支援センター・がん相談支援センターだより

秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 発行

第56号

初春の候、健やかに新年をお迎えのことと思います。  
日頃より、センター運営にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。  
2022年も、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 難病診療連携コーディネーターをご紹介します

難病診療連携コーディネーターの川村直子と申します。難病診療連携コーディネーターは、難病患者さんやご家族が地域で安心して暮らすことができるよう次のような活動をしています。

### 1. 難病診療ネットワーク構築

難病医療提供体制に関する情報を収集し、その情報を関係機関で共有しながら早期に正しい診断ができるよう、秋田県内の診療ネットワークの構築に努めています。

### 2. 医療相談

難病患者さんやご家族、関係機関からの相談に応じています。相談方法については、秋田大学医学部附属病院の地域医療患者支援センター・がん相談支援センターのホームページをご参照下さい。

<難病診療連携コーディネーターへの相談事例>

#### 難病患者さん・ご家族

- ・病気に関する相談
- ・医療費や経済的な相談
- ・各種制度の情報提供
- ・就労支援や仕事・学業と療養の両立に関する相談 など

#### 難病の患者さんやご家族を支援されている関係機関の方

- ・難病が疑われながらも診断がつかない患者さんについての相談
- ・在宅で療養している難病患者さんの一時入院先の確保に関する相談
- ・退院調整困難な事例
- ・医療従事者、就労支援関係者への研修 など



### 3. レスパイトケア入院確保

難病診療分野別拠点病院及び難病医療協力病院等と連絡調整を行い、一時的に在宅で介護等を受けることが困難になった在宅難病患者さんの一時入院先を確保しています。

### 4. 在宅難病患者支援

関係機関と在宅療養のための情報提供や地域支援の連絡調整を行い、可能な限り身近な医療機関で治療が継続できるよう支援しています。

### 5. 研修会の開催

難病診療に携わる医療従事者や就労支援関係者を対象とした難病に関する研修等を実施しています。

難病に関してお困りになっていることがありましたら、難病診療連携コーディネーターに是非、お問合せ下さい。難病患者さんが地域で治療を継続しながら安心して暮らすことができるよう、一緒に考えていきましょう。



# 入院前支援について



●対象診療科 **21診療科**に対応 (2022年1月現在)

消化器内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ内科、消化器外科、食道外科、心臓血管外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、脳神経外科、婦人科、放射線科  
※今後：糖尿病内分泌内科を予定



- 入院前支援対応件数は、約250件/月、「入院時支援加算1」の算定件数は、約200件/月で推移しています。対応件数に対する入院時支援加算の算定割合は、約80%と高く、入院前支援を受けた約8割の患者は、入院後、退院支援を受けて自宅退院できています。全入院患者に対する入院前支援割合は、23%前後ですが、今後もより多くの患者さんに対応し、安心して入院できるよう体制を整備していきたいと考えています。
- 入院前支援のブラッシュアップを図る目的に「入院前支援の外来での現状調査」を9月に看護師・クレークを対象に実施しました。その結果、「入院前支援」の認識が不十分であることがわかり、共通認識を持つべく説明会の開催やマニュアルの作成が課題となりました。またクリニカルパスや手術患者の必要物品等の説明書類の標準化が必要であり、各診療科ルールをどこまで標準化できるかが課題として抽出されました。現在、課題解決に向けて、取り組みを検討中です。

☆1-6,1-7病棟に「入退院支援に関する勉強会」を実施しました(11月)



## 退院支援について

- 「入退院支援加算1」の算定件数は750件/月を超え、退院患者の**7割強**に算定できています。
- 「入退院支援システム運用に関するアンケート」を病棟を対象に11月に実施しました。一部抜粋しましたので、ご参照ください。

**Q:入退院支援システムが電子カルテに導入されてのご意見**

**A:**

- ・「入院時に漏れなく依頼できるようになった」
- ・「可視化でき取り組みやすい」「ペーパーレス化できた」
- ・「入院時から退院支援を考えるきっかけになった」
- ・「やることが多い」「もっと簡素化してほしい」
- ・「iPadでサインしてもらおう方向にならないか」

**Q:入退院支援システムの導入は、業務改善に繋がっていますか？**

**A:**

- 「はい」6部署
- ・「看護記録の簡略化ができた」「効率化が図られている」
- ・「支援センターと早期に連携がとれるようになった」
- ・「患者情報を共有でき転院調整や在宅移行が円滑になった」
- 「いいえ」8部署
- ・「カンファレンスや入力時間が増え業務改善にはなっていない」
- ・「退院支援計画書を入力する負担がある」
- ・「確認項目が多い」「人数が多いと負担に感じる」

**Q:入院前支援に関する内容**

**A:**

- ・「個室希望、アレルギー情報があり、助かっている」
- ・「業務の短縮に繋がっている」
- ・「大きな業務改善となっており、ありがたい」
- ・「プロファイルが入院前に入力されており、早期介入が可能になった」
- ・「事前にお薬手帳のスキャン、掲示板に本人のADLなどを聞いてくれているので、事前に準備ができていい」

## がんサロンオンライン開催のお知らせ

令和4年2月24日(木) 14:00~15:00 「ストレスにどう向き合っていますか？」

「地域相談支援フォーラムin山形」(2021.10.16開催)において、コロナ禍でのがん患者支援の工夫として、当院のがんサロンオンライン開催の取り組みを発表しました。オンラインでの先駆的な取り組みは大変高く評価されました。



**新しいスタッフのご紹介**

**中村由美子副看護師長**

11月から配属となりました。入院前支援で関わらせていただきます。初めての部署で不慣れな所もありますが、これまで病棟で入院時に関わった経験を活かしながら、患者さんやご家族に寄り添い、少しでも不安なく入院・治療に向き合えるように支援していきたいと思います。また、入院時に退院後の療養生活も見据えた情報収集を行い、病棟、後方支援へと橋渡しをし、連携していければと思っています。精一杯頑張りますので、よろしくお願いします。



**小川敦子看護師**

昨年12月12日より配属となりました。入院前支援を担当しています。週の半分はリハビリテーション科勤務ですが、回復、退院間近の患者さんと違い、入院前の患者さんの緊張、不安と期待とをひしひしと感じています。患者さんの想いが病棟へ繋がるよう努めてまいります。

